

★12/21~12/24★

ラオス研修

レポート

医学部医学科1年次
104126G 具志堅愛夏

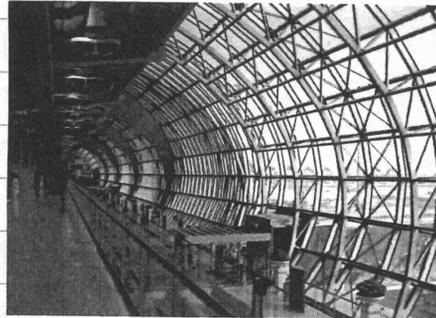
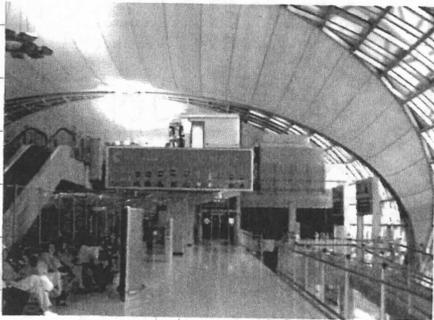
12/21(火)~12/24(金)の日程で、ラオスでの口唇口蓋裂の手術の見学に参加させていただきました。私は海外に行くのが今回初めてということもあり、正直期待よりも不安の方が勝っていました。しかし、いざ行ってみると、私の知らなかった世界が広がっておりとても貴重な体験をすることができました。特に、実際に手術を見学させていただき、これから学んでいくであろう医学にやる気が湧くとともに手術スタッフの方々に強い憧れを抱きました。

そんなラオスでの4日間をレポートにしたいと思います。

—1日目—

☆ラオスへの旅

那覇→福岡→タイ→ラオス という乗り継ぎの連続でビエンチャンへ到着!
那覇から7:15に出発し、ラオスに到着したのは現地時間の21:00でした。



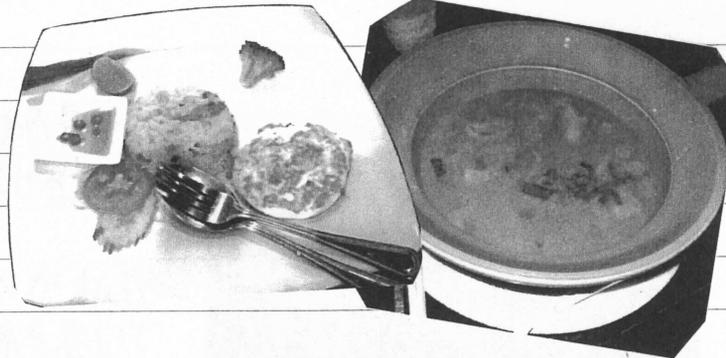
バンコク・スワンナプーム
国際空港。

とにかく広い!!!

この日は1ドル=26バーツ
でした。タイは入国審査が
とっても厳しい

空港で dinner ☆

右の写真があのトムヤンクンです!
タイ料理は独特な香りで、ほとんどの
料理がすっはい感じてした。
お米は細長くて、パサパサでした。



☆ラオスに到着



ラオスに到着したのは夜でしたが、湿度が高く
半そででも十分な気温でした。

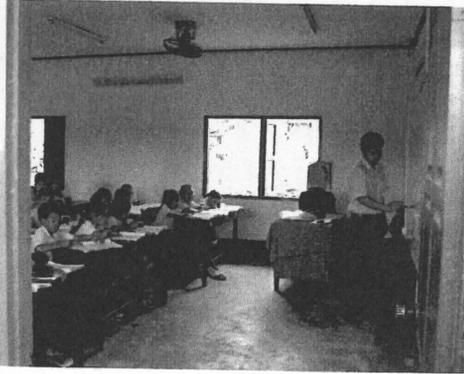
行く前から聞いてはいたのですが、予想以上に蚊が
多くてビックリ!! 空港では、軍人さんのような人達が
入国審査を行っていました。

メコン川沿いの Lane Xang Hotel に宿泊しました。

Lane Xang Hotelにて♪

— 2日目 —

☆ラオス健康福祉大学附属小学校訪問



ラオスでは小学校は5年生まで。
子供達は元気いっぱい、誰にでもあいさつをする
素直な印象を受けました。
制服はあるが、全員が着ているわけではなかったです。
中には日本語であいさつができる子もいて、とても
親近感を感じる子供達でした。

☆ラオス健康福祉大学へ

ラオス健康福祉大学でセレモニーを行ったあと、医学科の5年生の方々にキャンパスを案内してもらいました。大学は学ぶ場であると同時に病院であること、医学の勉強にフランス語を使うことが意外でした。

その後、一緒に屋台で昼食をとりました。米で作ったラーメンを食べましたが、少し薬草の味がするだけでとても食べやすかったです。

思っていたよりも英語で会話をすることができ、楽しい時間でした😊

☆メコン川レストランにて交流会

レストランから見えるメコン川の夕日は絶景でした。

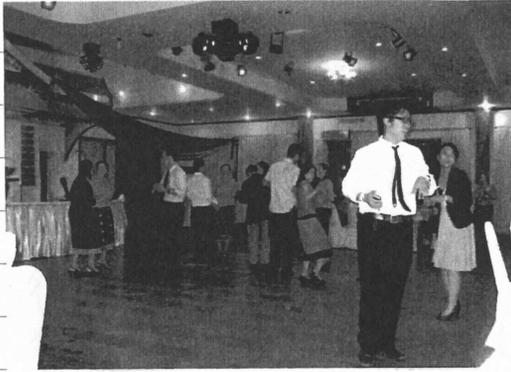
はじめに、ラオスの伝統行事である幸せを祈るイベント(写真・下)をしました。

糸に呪文でパワーを込め、ラオスの方々が私達の幸せを願いながら、手首に何本もの糸を巻いてくれました。このヒモを日本に帰ってからていねいにほぐすと、幸せになれるそうです。

また、1人1人に食べ物が配られ、それを食べることで幸せが自分の中に入って来るそうです。

私もリンゴを食べたので、2011年はハッピーな年になると思います。

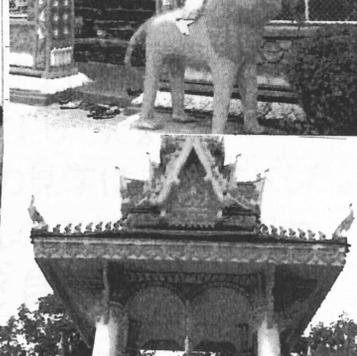




LAOS dance 踊り

食事は、祝い事に出される手で食べる赤飯や伝統料理であるラープ、焼そば、フルーツなどでした。スパイスな料理がほとんどでした。食事が一段落すると、みんなでラオスタンスをしました。カチャーソーに似たゆったりとした伝統的なダンスからステップの激しいダンスまで、みんなで踊り、とても楽しかったです。ラオスの人々と心が打ち解けた瞬間だったと思います。

☆観光の様子(2日目)



↑ トゥクトゥク ↑

乾期のメコン川 ↓

ラオスには、多くの寺がありました。派手な建造物や大仏はもちろん、独特の動物像が目立ちました。お寺の中には、女性がひざ上を見せることを禁止しているところもあり、絢子さんと有希子さんは民族衣装のスカートを貸してもらっていました。

— 3日目 —

☆口唇口蓋裂オペ見学

ラオス郊外のセタ・ティラート病院にて、口唇口蓋裂の手術を見学させていただきました。

私達1年生にとって、初めての手術見学であり、みんな期待と緊張でいっぱいでした。

私達は2件の手術に入らせていただきました。

まず1件目は、口唇裂の手術。麻酔をかけることから始まり、挿管が終わると、石川先生が唇を切っては縫い、切っては縫いを繰り返して、20分も経つと患者さんの唇の見た目がだいぶ良くなったことが私にもわかりました。

石川先生をはじめ手術スタッフの方がてきぱきと正確にオペを進めていく様子はとてもカッコ良く、憧れを抱き、手術に関わっている人全員が1つになっていることを強く感じました。

また何も知らない私達に説明や誘導をしてくれたり、時には手術の補助さえこなしてしまう先輩方をすごく尊敬できたと、私もこんな上級生になりたい!! と心から思いました。

2件目は、口蓋裂の手術でした。写真などでよく目にする口唇裂とは違い、実際に口蓋裂がどのようなものかを見るのは初めてで、正直予想以上の口内に衝撃を受けました。麻酔をかける時患者さんは自分で口を開けることができないため、器具で口

を開けた状態を固定していました。

残念ながら、この手術の見学はここまででした。

今回は術前の患者さんの不安そうな様子や術後の家族の表情を自分の目で確かめることができ、私が医師になった際には少しでも患者さんの不安を取り除けるよう納得いくまで説明し、たくさんの人に笑顔を与えられたいなと考えました。

これからの学生生活への刺激にもなる本日に貴重な体験となりました。

初めてのオペ😊



<口唇口蓋裂について学んだこと>

☆口唇裂について



図のように唇を中心に皮膚が裂けていて、裂けている部分の長さ・片方or両方など個人差がある。

主な問題はその見た目であり、いじめの対象になってしまったり、職に就けずなど、社会になじめないことが多い。

裂けている部分をつなげる時は、唇の何箇所かに切れ目を入れて少しずつ縫っていく。

口は笑ったり、話したりなどで必然的に横に引っ張られるため、ギザギザに切れ目を入れて皮膚を重ねあわせるようにして縫合する。

縫合する際に注意するのは、隙間を残さないこと。(隙間から菌が発生して感染症になる恐れがある。)

また縫合の際、表皮、筋肉、脂肪など部位によって使う糸が異なる。

☆口蓋裂について



図の矢印部分が大きく裂けている。

口の中なので外見上は何の問題もないが、空気が鼻に抜けてしまうので言葉を上手く発音できないというデメリットが生まれる。

そのため、日本では喋り始める前に手術を行っている。

麻酔がかかっている患者さんは自分で口を開くことができないため、器具を使って口を開いた状態で固定し、手術を行う。

☆その他

麻酔中は自発呼吸ができないため、覚醒させる時は挿管された管を抜くタイミングがとても重要になる。

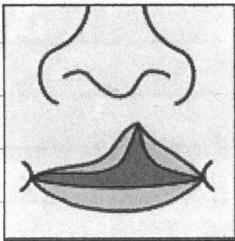
手術室にある水色・緑の布のエリア及びスタッフには絶対に触ってはいけない。手の洗い方からふき方まで決まっていて、手術室は本当に清潔な状態に保たれている。

手術予定の患者さんの1人が逃げてしまうという事態があり、せっかくの無償手術を捨ててしまうくらい不安だったんだと実感した。

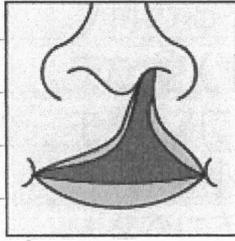
< 口唇口蓋裂について調べたこと >

☆ 口唇裂の分類

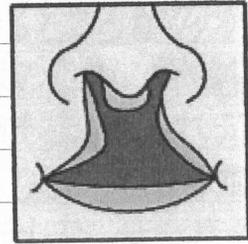
口唇裂は、鼻まで達する完全口唇裂、鼻まで達しない不完全口唇裂、その他に片側性・両側性に分けられる。また軽微な口唇裂を痕跡唇裂と言う。



片側不完全



片側完全



両側完全

☆ 口唇口蓋裂の原因

人の顔は、胎児の時に顔面突起が組みあわされて作られていくものであるが、その際に癒合不全が起きてしまうと、口唇裂および口蓋裂になってしまう。

したがって、誰でも口唇口蓋裂になる可能性があるのである。

口唇口蓋裂の原因は遺伝だとされているのが有力であり、遺伝的要因に加えて環境的要因も影響しているという説もある。

☆ 口唇口蓋裂の頻度

口唇口蓋裂の赤ちゃんの出生してくる頻度について、日本では500~700人に1人の頻度だと報告されている。

また、白人では800~1000人に1人、黒人では1000~1800人に1人だという頻度と比べると、日本での口唇口蓋裂の頻度は高いことがわかる。

また、韓国や中国での頻度も日本と同等なことから、黄色人種では口唇口蓋裂の頻度が高いと考えられる。

よってラオスでも、日本とそう変わらない頻度であることが予想される。



とても貴重な体験ができました ☺♡

☆観光・Shopping



手術の見学の後、ラオスの街で観光・Shoppingを楽しみました。

お土産屋さん、圧倒的に民族スカート・スカーフ用の布を売っているところが多かったです。

また象(移動手段のため、感謝されている)をモチーフにした小物もよく見られました。

市場は小さな店がびしりと立ち並んでいて、多くの人々でにぎわっていました。また店のすぐ前まで車が走っていることには驚きでした。

お店のほとんどは、通訳さんが値段を交渉するとすぐに安くしてくれます。

日本にあるようなスーパーマーケットやコンビニもあり、またそのような店では日本語の商品が多く売られていたのが意外でした。

ホテルの近くのコンビニで買ったアップルパイが絶品でした。物価も日本に比べると安く、楽しく買いものすることができました。

3日間お世話になった通訳の方とお別れして、ラオスをあとにしました。とても話やすく、頼りになる通訳さんでした。



お世話になった通訳さん♪

— 4日目(帰国) —

☆ラオスから沖縄へ

ラオスのビエンチャン・ワットタイ国際空港は日本が作ったということもあり、日本料理店がありました。そこで「熊本火の国ラーメン」を食べましたが、やはり日本のものとは少し違っていました。先生・先輩方、お見送りありがとうございました。

ラオスからタイ空港へ。たくさんのお土産を持って、福岡へと向かいました。到着し、やっと日本だと思ったら、事件が!!なんと私達の荷物が行方不明に…。(タイに忘れられていて後日受け取りました。)荷物の手続きをした後、無事大好きな沖縄に帰ってきました!とても楽しいラオスの4日間でした。

《ラオス研修をふりかえって》

まず、私達のような医学的知識もない年生をラオス研修に連れて行ってくださった佐藤先生、砂川先生、新崎先生、桑江さん、口腔外科の皆さん、本当にありがとうございました。おかげで、とても貴重な体験をすることができました。

正直、私は旅行があまり好きではないため、今回の研修に乗り気ではありませんでした。しかし、実際にラオスに行ってみて、自分の知らなかった新しい世界を知ることができ、心から行って良かったと思いました。ラオスで過ごした時間は短かったけど、その時間すべてが新鮮で、私にとって忘れられないものになりました。私達地域卒の学生は、将来、離島や北部など医療過疎である地域で勤務することが予想されます。そんな私にとって、ラオスの限られた人材や器具の中で日本と変わらない治療を行うんだという砂川先生の言葉とオペチームの姿は、今までの私の考えに大きな影響を与えました。夏休みの北大東診療所での実習を経て、私は離島診療所での医療の限界を実感し、将来そのような地域で働くことに不安を覚えていました。しかし、今回の研修を通して、限られた中であっても他の地域と同じような治療が行える可能性があることを知りました。もちろん、100%ができるわけではないけれど、その中で最大限の努力をすることで不可能だと考えていたことができるかもしれないと思いました。

そして、病気だけでなく患者さんのすべてを見ること、治療後のことまで視野に入れることを学びました。先生方の診察を見学していると、住んでいるところや職業、年齢を考慮していて、単に病気を治すだけでなく、患者さんの全体を見てより良い生活をするための手助けをすることが大切なのだなと思いました。

今回の研修は、本当に私にとってこれからの学生生活への刺激となりました。まずは、先輩達のような頼りになる上級生になり、それから先生方のようにカッコ良い医師になりたいと強く思いました。ただ憧れられるような医師ではなく、先生方のように地域の人に親しまれる医師になります。そのために、今後は今までよりも勉学はもちろん、部活動も頑張っていきます。



最後に、今まで地域卒での活動はあっても個人での活動であったため、全員が一つにならなければならない活動は今回が初めてでした。これから共に頑張っていくであろう7人が今までよりお互いのことを知り、親密になる良い機会となり嬉しく思っています。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。